kintone
導入事例

RICOH
imagine. change.

岩塚製菓株式会社 様

現場主導のkintone®アプリ開発で「紙」依存から脱却！ITの専門知識を持たない業務担当者でも、アプリを内製化できる「現場の自走型」DX組織へ

国産米100%にこだわる米菓メーカーの岩塚製菓株式会社では、紙やExcelによる情報管理の限界から生じる業務の非効率改善を目的として、kintoneを導入。その後、社内へのkintone活用にあたっては、情報システム部門主導ではなく、現場の業務を熟知した担当者が自らアプリを作成・改善する「現場の自走型DX」を推進し、現場視点でさまざまな業務の効率化を進めています。さらに地域のITリテラシー向上を目指すコミュニティ活動「kintone Café」の運営など、全社・地域に広がる自走型DXのモデルケースを築いています。

お客様プロフィール

お米となかよし 岩塚製菓株式会社

所在地：新潟県長岡市飯塚2958番地
創業：1947年7月
資本金：16億3475万円
従業員数：889名（2026年3月期・連結）
会社概要：米菓の製造・販売
URL：https://www.iwatsukaseika.co.jp/



「米・技・心」を受け継ぎ、地域に根差して高品質な米菓を届ける

「米・技・心」（こめ・わざ・こころ）という創業の精神に基づいて「原料へのこだわり」を徹底し、日本のお米100%を使用した米菓を全国にお届けしています。「出稼ぎに行かなくても暮らしていける地域にしたい」という創業の思いのもと、地域密着と高い品質管理を両立させながら伝統の味を守り続けています。

お困りごと

- ✓ 総務部門：書類などの管理が紙やExcelに依存し、情報の共有不足や更新漏れによる「ブラックボックス化」が発生していた
- ✓ 製造部門：機器の点検表やISO内部監査チェックシートが各部署で紙管理され、保管場所の圧迫や監査確認に膨大な時間がかかっていた
- ✓ IT部門主導の開発では現場の細かな業務フローや迅速な改修要望に対応しきれず、業務改善が進みにくい懸念があった

解決

- ○ kintone上に共有台帳アプリを構築し、全社でリアルタイムに一元管理・共有できる環境を整備した
- ○ 業務フローに精通した現場担当者が自らアプリを作成し、各種点検表や監査資料のペーパーレス化と作業時間の大幅短縮を達成した
- ○ 情報システム部が技術的な伴走支援に徹することで、IT未経験者でも自力でアプリを構築・改修できる現場自走のDX体制を確立した

アプリを作りながら業務を見直していると、「この業務、不要かな」という気付きを得ることもあります



岩塚製菓株式会社　執行役員
情報システム部 部長 兼
DX推進室 室長
DX推進実施責任者
関 隆志 様



岩塚製菓株式会社
情報システム部
情報システム課
DX推進担当者
小林 亮太 様



岩塚製菓株式会社
IPS推進部 製造企画課長
山本 博丈 様



岩塚製菓株式会社
IPS推進部 製造企画課
松井 香菜子 様

背景と課題

「紙」とExcelによる情報管理がもたらす業務の非効率とブラックボックス化

岩塚製菓株式会社では長年にわたり、紙の書類やExcelを中心とした業務管理が行われていました。しかし、手書き書類の個別保管や台帳の更新遅れが常態化しており、全社で必要な情報を必要な時に共有できないという非効率が生じていました。

例えば総務部門では、営業用社用車のリース割り当て管理が紙やExcelで行われており、更新が不十分だったため、事故発生時などに誰がどの車両を使用しているかを即座に特定できない問題が発生していました。また、部署ごとに保管されている契約書の有効期限や更新状況が総務部門から見えないことも大きな課題でした。

製造現場や企画部門でも、フロンガス機器の点検表やISO内部監査のチェックシートが大量の紙ファイルとして保管されており、保管場所の圧迫や紛失リスク、監査時の確認作業に多大な時間と労力を費やしていました。

当時総務課長だった山本様は、「紙があることで棚や倉庫が埋まり、古い情報が残ったまま共有もされない状態が続いていました。紙を減らし、誰もがアクセスできるデータベースへ移行することが不可欠でした」と当時の課題を語ります。

導入の経緯

「お客様相談室」システムでの成功を機に全社展開へ。情シスは伴走、開発は現場が担うスタイルを確立

同社におけるkintone活用の第一歩は、属人化していた「お客様相談室システム」のリプレースでした。情報システム部長の関様はリコーのセミナーでkintoneを知り、当時、ローコードツールに着目していた背景もあり、情報システム部の小林様がkintoneによる自社開発を提案。リコーのサンプル構築やサポートのもと、「将来的にユーザー部門自らがメンテナンスできる形にすること」を前提に導入が決定されました。顧客からの問い合わせの受付から製造部門への連携、回答にいたるまでの業務がスムーズに運用できたことで、kintoneの有効性が実証されました。

その後、山本様がペーパーレス化について情報システム部に相談したところ、kintoneを紹介され、小林様のサポートを受けつつ、自らkintoneで車両管理や契約書の共有台帳アプリを構築し、活用を始めました。

IT専門家でなくても、業務を理解していればアプリは作れる

その後、IPS推進部　製造企画課長に転じた山本様は、育休後復職したばかりの松井様を「DX担当」に指名。松井様は、初めてkintoneに触れることになります。「文系出身でプログラミングの専門知識はありませんでしたが、公式マニュアルの確認や独学で仕組みを理解し、手始めにフォーム作成から取り組みました」（松井様）。その後、松井様は、小林様からプラグインの活用提案などの適切なサポートを受けつつ、短期間で高度な業務アプリまで自力で構築・改修できるレベルに成長しました。

導入の効果

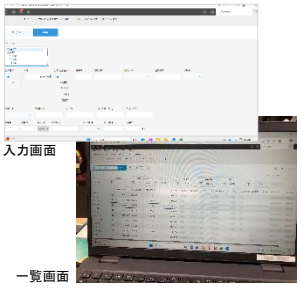
現場主導でペーパーレス化を達成。業務変更にも即座に対応できる「現場の自走型DX」が定着

現場の業務をよく知る松井様が直接アプリ開発を担うことで、実効性の高いアプリが次々と誕生しました。

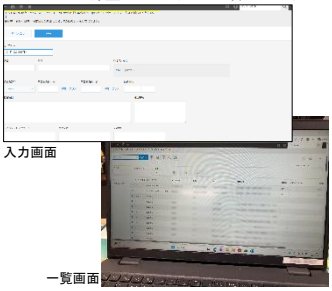
3ヶ月ごとに発生するフロンガス機器の定期点検では、従来各部署で紙保管していた点検シートをkintone化。事務局が全社の点検状況を一覧で把握できるようになり、確認漏れ防止や監査対応業務の効率化につながりました。また、部署ごとに項目が異なり複雑なISO内部監査（ISO14001＜環境＞/ISO22000＜食品安全＞）のチェックシートアプリ化では、フォーム数の上限というシステムの制約に直面したものの、松井様自らが「1レコード1項目」への構造変更や動画マニュアルの作成といった工夫で乗り越え、他部署への横展開を成功させました。

現場主導の最大の強みは、業務変更や使い勝手の改善に即座に対応できる点です。松井様は自席の隣にいる現場担当者と対話しながら、要望に応じてその場で画面構成や入力項目を修正するサイクルを回しています。松井様は「現場の困りごとを直接聞いてその場でアプリを良くしていけるため、業務が楽になり喜んでもらえる実感が得られます」と語り、現場自らの手で改善を推進する「現場自走型のDX」が定着しています。

フロンガス機器定期点検管理アプリ



ISO内部監査チェックシート管理アプリ



今後の展望

原価計算のリアルタイム化と「kintone Café」を通じた地域社会の自走型DX推進

製造企画課では今後、毎月2週間かけて手動で行っている「実際原価計算」をkintone等のデータベース連携によってリアルタイム化し、過去の報告に留まらない「未来の改善策を議論できる会議」への変革を目指しています。

関様は「トップの『失敗してもいい』という方針のもと、製造企画課の取り組みをモデルケースに、全社員が自律的にデジタルを活用して業務改革を起こす組織を目指します」と展望を述べます。

さらに同社は、創業以来大切にしてきた「地域とのつながり」をデジタル分野でも実践するため、長岡地域で企業が集うオープンコミュニティ「kintone Café」を小林様らが中心となって運営しています。リコーをはじめとした地元企業の協力・サポートを得ながら年4回開催し、参加者が自ら手を動かすハンズオン形式でノウハウを共有し合うことで、自社にとどまらず地域社会全体のITリテラシー向上と「現場自走」に貢献しています。

※Excelは、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。kintoneおよびkintone Caféは、サイボウズ株式会社の登録商標または商標です。本資料に掲載のその他の会社名および製品名、ロゴマークは各社の商号、商標または登録商標です。※記載内容は、2026年10月現在のものです。

RICOH imagine. change.
リコージャパン株式会社
東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル　〒105-8503

https://www.ricoh.co.jp/products/list/ricoh-kintone-plus

●お問い合わせ・ご用命は…